

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学習成果を測定するための基準・指数の開発に向けた検討を行う。	→学習成果測定の基準・指数の開発の状況	C	C	B	B	B
2. 学生が自身の学習成果を認識・測定できるような方法を検討する。	→学習成果の認識・測定方法の検討状況	C	C	C	C	C
3. 卒業生の就職先および卒業生の法学部に対する評価を教育にフィードバックする仕組みを検討する。	→就職先、卒業生に対する法学部教育に関するアンケートの実施	C	C	C	C	C
4. 学士学位の授与基準・手続について検討する。	→学士学位の授与基準・手続の検討状況	C	B	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度においてIR事業を試行的に導入し、学生アンケートを実施した、これによって教育成果の検証が一部ながら可能となった。もっとも、データを経年的に比較対照して検証するには未だ至っていない。IRは今後も導入される運びとなるようであるため、今後継続してデータを蓄積することにより、検証が可能となろう。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か まだデータを蓄積している過程であるので、特に記述すべきことはない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 全学のIR事業と歩調を合わせて、学習成果測定の基準を開発していく。	☆
		その他	☆

目標2	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 授業調査において、学生がその授業において成果を得たかを問う項目により、学生の自己評価を行っている。また、2011年度に試験的に導入されたIRを今後継続して導入することにより、検証の一助とはなるが、客観的な測定方法はいまだ未整備である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生自身の自己評価を検討し、教育にフィードバックさせることが課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生の自己評価を教育にフィードバックするやり方について、カリキュラム委員会などで検討を進める。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度卒業生全員を対象に卒業時アンケートを記名式、自由記述で実施した。 卒業生や就職先企業へのアンケートの実施については、キャリアセンターなど関連部署と調整中である。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 成果はまだ不明である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後分析し、対応・改善できるものから実施する。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学生への学位授与方針を2011年度に策定し、法学部の履修心得、法学部ホームページ、および大学教務部ホームページに明示した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部のディプロマポリシーについての意識は高まったと思われる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か このまま運用を継続し、課題の有無を確認する。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆